粗利率の改善と販管費の減少により増益を確保

連結決算ハイライト

当上半期は、新型コロナウイルスの感染拡大が世界各国の医療体制に大きな影響を与えるとともに、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。国内では、医療機関の経営悪化が懸念される中、補正予算や診療報酬の特例措置により医療体制の整備が進められました。海外では、感染拡大が継続している地域において、新型コロナ対策の医療機器の整備が進められました。

当上半期の売上高は前年同期比2.8％減の872億4千万円となりました。利益面では、売上構成の変化により粗利率が改善したこと、旅費交通費などの販管費が減少したことから、営業利益は前年同期比24.9%増の87億5千8百万円、経常利益は前年同期比29.7%増の82億1千5百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比47.8%増の58億2千6百万円となりました。

<国内市場>

国内売上高は前年同期比16.6％減の562億4千8百万円となりました。市場別の取り組みを強化するとともに、医療安全、診療実績、業務効率につながる顧客価値提案を推進するため自社品の販売に注力しました。しかしながら、前年同期の消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動から全ての市場で減収となりました。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う医療機関での検査・手術の減少や生体計測機器など一部製品に対する予算執行の延期・凍結も影響しました。大学、官公立病院市場では、前年同期の新築移転に伴う大口商談の受注の反動減もあり大幅減収となりました。商品別には、人工呼吸器、AEDが好調に推移した治療機器は前年同期実績を上回りましたが、生体計測機器、生体情報モニタ、その他商品群が低調でした。

<海外市場>

海外売上高は前年同期比39.0%増の309億9千2百万円となりました。生体情報モニタおよび人工呼吸器の需要が急増したことから、全ての地域で二桁成長となりました。商品別には、生体情報モニタ、治療機器が二桁成長を遂げた一方、生体計測機器、その他商品群は低調でした。

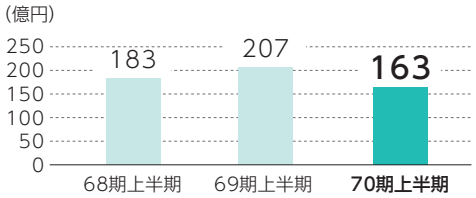
商品群別の概況（連結）

❶生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	検査・手術の減少や予算執行の延期・凍結もあり、全ての商品が二桁減収となりました。パルスオキシメータやLAVITAは需要が増加しました。
海外	脳神経系群が需要の減少に伴い、米州、アジア州他で低調に推移しました。心電計群は感染症対策の需要もあり、全ての地域で好調に推移しました。

売上高 163億円（前年同期比21.3%減）

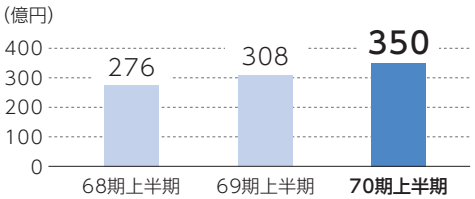


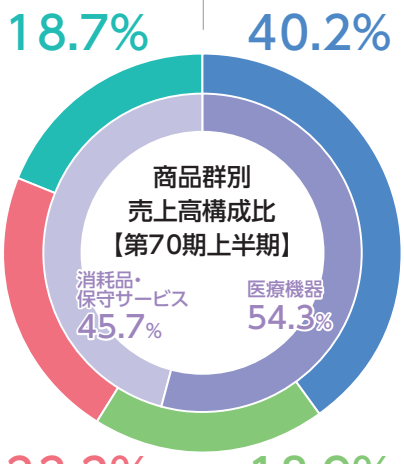
❷生体情報モニタ

生体情報モニタ、臨床情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

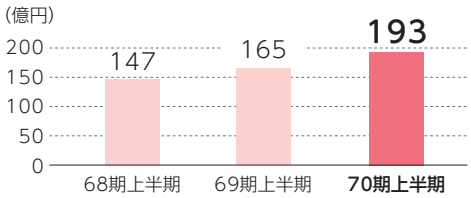
国内	前年同期が好調だった反動により、臨床情報システム、ベッドサイドモニタが大きく減少しました。医用テレメータ等は好調に推移しました。
海外	新型コロナウイルスの感染拡大で需要が急増し、全ての地域で二桁成長となりました。特に、欧州、中近東、中南米で売上が倍増しました。

売上高 350億円（前年同期比13.6%増）

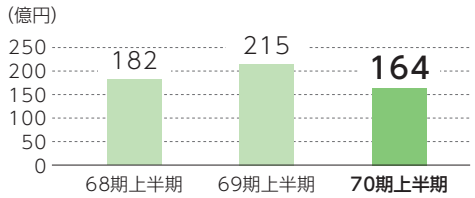




売上高 193億円（前年同期比16.7%増）



売上高 164億円（前年同期比23.4%減）



❸治療機器

除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカ、麻酔器、人工内耳、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	人工呼吸器が補正予算の寄与もあり好調に推移しました。AEDも好調でした。医科向け除細動器は好調だった前年同期から反動減となりました。
海外	人工呼吸器の需要が全ての地域で急増しました。医科向け除細動器も好調でした。AEDの需要は減少しました。

❹その他

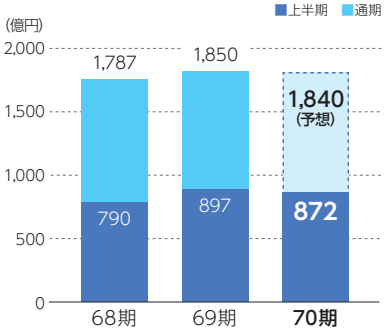
血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、研究用機器、関連の消耗品、設置工事・保守サービスなど

国内	前年同期の大口商談の反動や自社品販売の注力により、現地仕入品が大幅減収となりました。
海外	需要・検査数の減少により、血球計数器・試薬が全ての地域で前年同期を下回りました。

上半期連結決算ハイライト

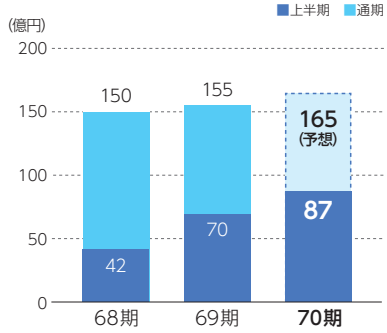
売上高

872 億円（前年同期比 2.8%減）



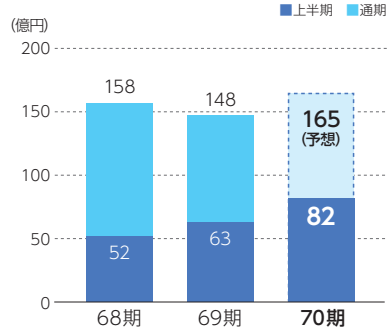
営業利益

87 億円（前年同期比 24.9%増）



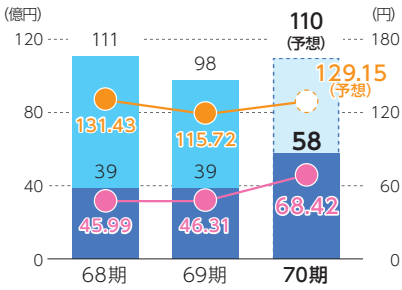
経常利益

82 億円（前年同期比 29.7%増）

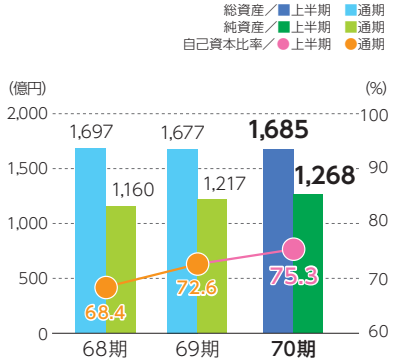


親会社株主に帰属する当期純利益／1株当たり当期純利益

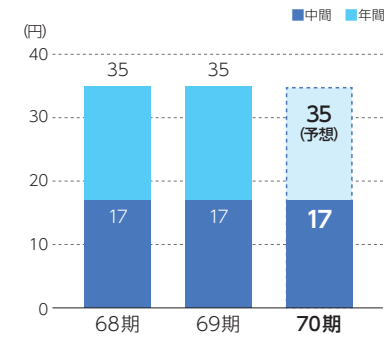
親会社株主に帰属する当期純利益 58 億円（前年同期比 47.8%増）



総資産／純資産／自己資本比率



1株当たり配当金



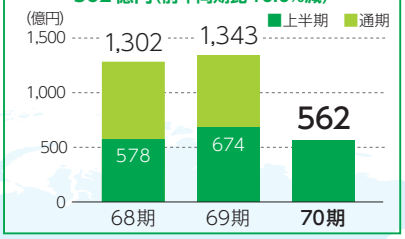
本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

地域別の概況（連結）

米州では、米国、中南米ともに二桁成長となりました。中南米では、ブラジル、メキシコ、コロンビアで売上を大きく伸ばしました。
欧州では、西欧諸国を中心に大幅増収となりました。特にイタリア、イギリスが好調に推移しました。
アジア州他では、ベトナム、カタール、インドネシアなどでの大口商談の受注もあり、二桁成長となりました。中国では、感染収束に伴い当第2四半期に入って需要が一巡したことから、売上の伸びが鈍化しました。

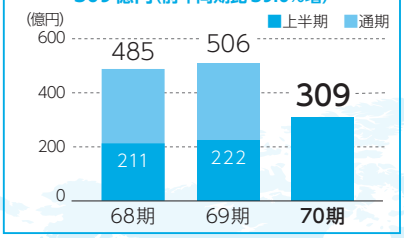
国内売上高

562 億円（前年同期比 16.6%減）



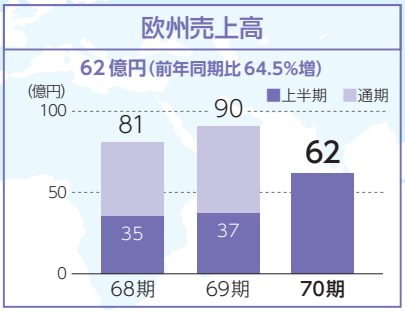
海外売上高

309 億円（前年同期比 39.0%増）



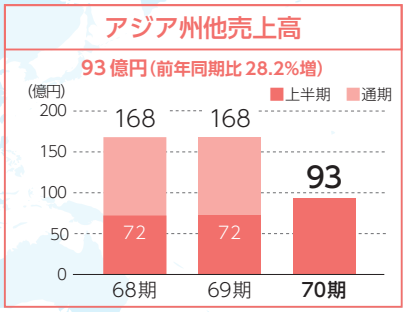
欧州売上高

62 億円（前年同期比 64.5%増）



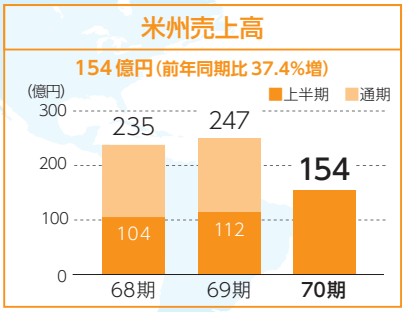
アジア州他売上高

93 億円（前年同期比 28.2%増）



米州売上高

154 億円（前年同期比 37.4%増）



※当連結会計年度から、アジア州とその他地域を合わせて、アジア州他としています。